

令和2年度(2020年度)

管理事業名	文化会館事業				総合計画の体系	大綱 7 政策 2 施策 1	都市魅力 文化・スポーツに親しめるまちづくり 文化の振興
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 30	文化会館費
部局名	都市魅力部	予算執行所属	文化スポーツ推進室				
予算大事業名 文化会館事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名						
事業の目的と概要 【目的】 文化会館の管理運営(指定管理者による管理運営)及び施設改修の実施により、市民文化の向上を目指します。 【概要】 ・大・中・小ホール、展示室、レセプションホール、練習室、集会室、会議室などの施設の使用許可及び使用料の徴収 ・施設及び付属設備等の維持管理 ・催しを円滑に進行し、かつ十分な演出効果が得られるように舞台関係所設備の操作・設備点検などの舞台管理業務 (令和元年7月から令和2年8月末まで改修工事のため全館休館し、令和2年9月から開館)							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標の定義
開館日数	日	331	85	190	年度内開館日数 (当年度の日数-(保守点検日+臨時休館日+年末年始休館日))
利用率	%	49.1	48.6	43.5	年間のホール及び諸室の午前・午後・夜間の区分毎(以下「コマ」と表記)にみた利用率(年間利用コマ数合計/年間提供コマ数合計)
催事開催数 (市主催・自主事業)	事業数 公演数	54 146	41 95	38 125	市主催事業、自主事業の実施数
成果の説明	平成30年度は、大阪府北部地震発災後に大ホールの使用を中止し、令和元年7月から令和2年8月にかけては、改修工事により全館休館しました。令和2年9月から開館しましたが、近年の開館状況や新型コロナウイルス感染症の影響から、直近3年間の利用率は、45%前後で推移しています。令和2年度は、市制施行80周年、開館35周年に当たり、リニューアルオープンでもあり、文化活動の振興や地域文化の創造に努めたため、令和元年度と比較し、催事開催数は増加しました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	32,575	16,425	35,187	18,762
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	3,433	10,602	734	△9,868
経常収入 小計(a)	36,008	27,027	35,921	8,895
給与関係費	21,345	8,263	10,878	2,616
物件費	377,136	200,758	339,555	138,797
維持補修費	4,190	1,989	184,823	182,834
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	14,747	149	6,355	6,205
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	211,241	211,241	323,482	112,241
徴収不能引当金繰入額	△7	-	-	-
賞与引当金繰入額	1,502	725	855	130
退職手当引当金繰入額	9,959	△11,063	2,503	13,565
支払利息	2,742	4,057	5,356	1,298
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	642,855	416,120	873,806	457,686
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△606,847	△389,093	△837,885	△448,791
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	11,252	11,252
特別収入 小計(d)	-	-	11,252	11,252
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別費用 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	11,252	11,252
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△606,847	△389,093	△826,633	△437,539
一般財源充当額	410,907	375,502	1,041,464	665,961
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△195,940	△13,591	214,831	228,422

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	文化会館使用料:35,187千円 令和元年度は7月から改修工事に伴い全館休館していたため、対前年度比が増
物件費	文化会館指定管理料:332,540千円 令和元年度は7月から改修工事に伴い全館休館していたため、対前年度比が増
維持補修費	大ホール屋上防水補修修繕:3,047千円、蓄電池更新修繕:2,639千円、中ホール屋上防水補修及び外壁文字看板改修:1,288千円
負担金・補助金・交付金等	文化会館使用料過年度還付金:6,355千円 新型コロナウイルス感染症の影響による増
特別収入 その他	社会資本整備総合交付金:11,252千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	36,128	17,317	35,921	18,604
行政サービス活動支出	423,138	217,381	548,553	331,172
行政サービス活動収支差額	△387,010	△200,063	△512,632	△312,568
投資活動収入	-	-	511,252	511,252
投資活動支出	-	511,444	3,155,586	2,644,141
投資活動収支差額	-	△511,444	△2,644,334	△2,132,889
財務活動収入	-	382,700	2,179,700	1,797,000
財務活動支出	23,897	46,695	64,198	17,504
財務活動収支差額	△23,897	336,005	2,115,502	1,779,496
収支差額 合計	△410,907	△375,502	△1,041,464	△665,961
一般財源充当額	410,907	375,502	1,041,464	665,961
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	投資活動支出:改修工事のための工事請負費、工事監理委託料等 財政活動収入:地方債
----------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
施設利用者1人当たりコスト	平成30年度	268,065 人	2,398 円	令和元年7月から令和2年8月まで文化会館を全館休館し、改修工事を行いました。令和元年度と比較し、利用者は増加しましたが、改修工事や新型コロナウイルス感染症の影響による還付金の増額等により、経常費用が増加したため、施設利用者1人あたりのコストが大幅に増加しています。
	令和元年度	63,443 人	6,559 円	
	令和2年度	102,041 人	8,563 円	
開館1日当たりコスト	平成30年度	331 日	7,563,001 円	
	令和元年度	85 日	4,895,532 円	
	令和2年度	190 日	4,598,980 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	64,923	86,547	21,624
未収金	107	107	-	地方債	39,874	61,151	21,277
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
流動資産	-	-	-	賞与引当金	725	855	130
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	△107	△107	-	リース債務	24,324	24,541	217
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	4,577,227	7,410,568	2,833,341	固定負債	791,251	2,886,900	2,095,649
土地	2,597,020	2,597,020	-	地方債	734,841	2,853,390	2,118,549
建物・工作物	1,386,074	4,764,895	3,378,821	長期借入金	-	-	-
リース資産	72,979	48,653	△24,326	退職手当引当金	7,109	8,750	1,641
建設仮勘定	521,154	-	△521,154	リース債務	49,301	24,760	△24,541
無形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	負債の部合計	856,174	2,973,447	2,117,273
土地	-	-	-	純資産	3,948,620	4,663,451	714,831
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	27,567	26,330	△1,237				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	200,000	200,000	-				
出資金	200,000	200,000	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	4,804,794	7,636,898	2,832,104	純資産の部合計	3,948,620	4,663,451	714,831
				負債及び純資産の部合計	4,804,794	7,636,898	2,832,104

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

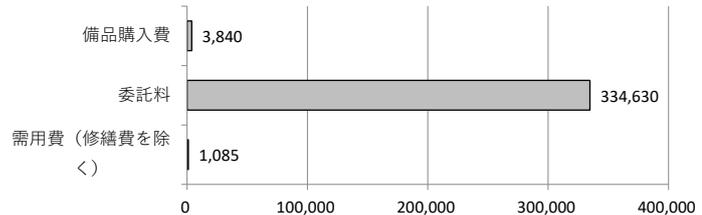
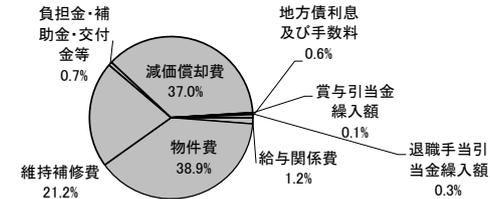
事業従事人数	常勤・再任用	会計年度任用等	特別職非常勤	合計(千円)
	月平均	年間従事延日数	年間従事延日数	
	1.3人			14,236
給与関係費等	14,236千円			14,236
内、時間外勤務手当	203千円			

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	文化会館改修工事での資産価値の上昇(3,378,821千円)による増
リース資産	舞台音響リース、舞台照明リース
建設仮勘定	文化会館改修工事(令和2年8月竣工)
重要物品	重要物品減価償却(1,237千円)による減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市文化会館
取得年月日	昭和60年3月1日
建物・工作物の取得価額	10,096,562 千円
建物・工作物の減価償却累計額	5,331,667 千円
利用料金収入	35,187 千円

▽分析指標

分析指標	年度	(単位:%)			差 B-A
		平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	
施設維持補修費比率		0.1	0.0	1.8	1.8
施設老朽化比率		75.5	78.4	52.8	△ 25.6
受益者負担比率		5.1	3.9	4.0	0.1
徴収不能引当率		100.0	100.0	100.0	0.0
一般財源充当比率		91.9	48.4	27.6	△ 20.8
経常費用対公共資産比率		10.0	6.5	8.7	2.2

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

【行政コスト計算書】
・改修工事及び修繕を多数実施したことから、維持補修費が増加しています。
・新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度使用申込分の還付があり、負担金・補助金・交付金等が増加しています。
【分析指標】
・改修工事を実施したことにより、施設老朽化比率は52.8%に減少しています。
・債権発生から4年経過した未収金があり、徴収不能引当率が100%で推移しています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

平成29年度以降、改修工事等により、文化会館の使用が制限されていましたが、令和2年9月に改修工事が終了し、リニューアルオープンしました。今後も計画的な維持補修を行い、施設の長寿命化を図ります。
改修工事等の影響により、利用率等が低下しており、今後は、以前と同様高い利用率になるよう、サービスの充実が必要です。
新型コロナウイルス感染症の影響により、使用に大きな制約がかかる等、これまでにない新たな施設運営の課題がありますが、文化活動の効用をまわづくり、青少年育成、福祉など様々な面で寄与できるような活動をより充実させることを目標として、事業の充実に取り組みます。
指定管理料がコストの多くを占めており、指定管理の効果的・効率的な運用、施設利用の適正化をさらに推進することにより、負担すべきコストの管理に努めます。